



NPO 通信

2011 年度後期講座・WS 担当理事

講座・WS 担当理事は担当する講座・WS 世話人と NPO をつなぐ核であるとともに経営上の責任者でもあります。今後、NPO の運営が属人から組織へと転換してゆくにあたり担当理事の役割は重要性を増してゆくと考えられますので、組織運営に適応した委託ルールを作り、2011 年度後期から実施してゆくことに致しました。

担当理事委託ルール

- 1) NPO 役員のうち各自受講している講座・WS を原則として担当する。
- 2) 講座と WS が連結している場合の担当理事は原則としてひとりとする。
- 3) 担当理事と代表世話人を兼務している場合は代表世話人の後任をできるだけ早く見つけるように努める。
- 4) 誰も受講していない講座・WS の場合は代表世話人とコミュニケーションの取れる可能性（時間的余裕等）の高い理事に委託する。
- 5) 2011 年度後期担当理事は 2012 年度前期まで担当することを原則とする。
- 6) コーディネーターが複数の関連講座を担当している場合（例：美術、音楽等）の担当理事はコーディネーター及び各講座の代表世話人とのコミュニケーション能力を考慮したうえでひとりにするか、複数にするかを決定する。
- 7) 野外学習のある講座・WS の場合は代表世話人とのコミュニケーションのほかに安全管理に実質的に寄与できる人が担当する事を原則とする。
- 8) 役員には受講科目の申請をしていただき、上記の原則に当てはめて事業推進から就任を依頼するとともに理事会の承認を得る。



企画・運営委員会報告

アカデミーの複合講座の企画・編成とカリキュラム全体の円滑な運営の為の総合調整機関として企画・運営委員会が発足し、活動を開始しています。

1. 開催回数及び時期
 - ① 半期 3 回 年 6 回
 - ② 前期：5 月、7 月、9 月 後期：11 月、1 月、3 月
2. 討議・検討事項
 - ① 講座・ワークショップ運営に関する事項（毎回）
 - ② 5 月：後期複合講座（エクセレント I、II、III、現代事情）のテーマ、講師、日程の決定
 - ③ 7 月：翌年前期複合講座のテーマ、講師等の協議
 - ④ 9 月：翌年前期複合講座のテーマ、講師等の協議
 - ⑤ 11 月：翌年前期複合講座のテーマ、講師、日程の決定
 - ⑥ 1 月：翌年後期複合講座のテーマ、講師等の協議
 - ⑦ 3 月：翌年後期複合講座のテーマ、講師等の協議



既に 2011 年度後期の複合講座（エクセレント I、II、III、現代事情）のシラバスを決定し、来年度前期テーマの検討を始めました。又 2012 年度から実施する「新ワークショップの運営ルール」も決定しました。

2011年度講座・ワークショップ一覧



曜日	No	講座・WS名	テーマ	担当役員	世話人代表
月	K1	美術Ⅰ	鑑定の目で見直す西洋美術史—ルネサンスから20世紀まで	高橋(冨)	高橋(冨)
	K2	人間学	林住期(第二の人生を生きる)—現代日本における「死生学」の展開	折居	折居
	K3	エクセレントⅢ	文明と科学Ⅱ—近代科学の誕生と発展	高橋(邦)	高橋(邦)
	K4	政治・社会	多文化共生の社会を求めて—日本とヨーロッパを視野に	白山	白山
	K5	音楽Ⅰ	歌舞伎さまざま—その不思議な魅力を音楽の面から見る	関根	山田
火	K6	国際関係	国際社会の中の中国／中国から見た世界—歴史と現在	乾	左中
	K7	日本史	古代日本と東国社会	高橋	浜島
	K8	いのちの科学	広がる生命科学の世界	折居	倉本
	K9	みどり学Ⅰ	みどり学Ⅰ	菅沼	高田
水	K10	自然(川崎)	多摩川の自然—川はつなぐ	眞田	清水
	K11	文学	「作家と町」の文学史(2)	田辺	崎口
	K12	エクセレントⅠ	世界を旅する⑥内陸アジアツアー	水流	水流
木	K13	暮らしの科学	生き物の形の美・動きの妙2	眞田	金井
	K14	環境とみどり	地球環境問題と生物多様性	折居	八木
	K15	音楽Ⅱ	モーツァルトを映像とともに—モーツァルト映画の世界—(その2)	佐野、(古沢)	海部
	K16	音楽Ⅲ	中欧音楽探訪—ショパンを生み、ドヴォルザークを育てた土地	佐野、(古沢)	佐野
金	K17	世界史	中国史Ⅰ 王朝の時代②隋・唐～清(アヘン戦争直前)	高橋(邦)	高橋(邦)
	K18	みどり学Ⅱ	みどり学Ⅱ	折居	斉藤
	K19	美術Ⅱ	心をかたちに—現代からみるキリスト教美術	高橋(冨)	森
	K20	エクセレントⅡ	世界の宗教④日本の宗教	水流	水流
	K21	経済	現代経済問題を再考する—経済学者の提言をとおして	関根	荒木
	K22	映像・メディア	写真の歴史と写真の見かた—写真表現の力と解釈	菅沼	古田
土	K23	歴史(川崎学)	時代の動きと川崎らしさ—近現代を通して	木村	木村
	K24	現代事情	アカデミー緊急講座:東日本大震災	乾	白山
月	WS-1	人間学	古典に学ぶ生きる智慧—『歎異抄』を読む	折居	折居
	WS-2	政治・社会	多文化共生社会はどこまで進んだか—検証し、考える	白山	稲田
火	WS-3	国際関係	国際社会の中の中国／中国から見た世界(ワークショップ)	乾	左中
	WS-4	社会福祉	成熟化社会における社会福祉のゆくえ—「災害と福祉」について考える	乾	境
	WS-5	日本史	『常陸風土記』の世界	高橋(邦)	浜島
	WS-6	いのちの科学	中止	折居	倉本
	WS-7	音楽	東京交響楽団が案内する交響楽の楽しみ方Part11	林(徳)	林(徳)
	WS-8	文学	名作を精読するⅡ—中央線沿線の作家と作品	田辺	崎口
水	WS-9	まち歩き	市境から隣のまちへ—歩いて学ぶ地域の歴史④	菅沼	園部
	WS-10	芸術	水彩画を描く—技法を基本から学ぶ	高橋(冨)	高橋(冨)
木	WS-11	環境とみどり	身近な環境とみどり	折居	八木
	WS-12	カウンセリング	カウンセリングを学ぶ—エンカウンターグループ(2)	水流	大森
金	WS-13	みどり学Ⅱ	植物の不思議発見	折居	坪内
	WS-14	美術Ⅰ・Ⅱ	美術の裏方—技法で見る美術史	高橋(冨)	岩野
	WS-15	経済	日本経済のこれからと雇用問題を考える	関根	岡
水	SP-A	福祉	傾聴ボランティア養成講座	千田	
金	SP-B	企業連携	地域社会に貢献している川崎の会社と人々 その3	眞田	
木	SP-C	川崎のまちづくり	震災につよいまちづくり—川崎で大地震が起きたら	木村	
火	SP-D	活動支援	有用微生物による環境改善指導者養成講座	田辺	
金	SP-E	子育て支援	発達障害のある子どもを理解するために—地域での子育て	千田	

講座・ワークショップ紹介 第1弾!

エクセレントⅢ講座『文明と科学』 月曜日 午後1時より 生涯学習プラザ

「文明と科学Ⅱ－近代科学の誕生と発展」 東京工業大学教授 中島秀人 ほか

この『文明と科学』は、科学の歴史を学ぶ講座です。今日、科学技術は私たちの生活や社会に無くてはならないものとして存在していますが、その科学技術が「いつ」「なぜ」「どのようにして」生まれ、これからどこへ向かおうとしているかということをはっきりさせるのがこの講座のねらいです。科学そのものを解説するわけではないので、講義には科学の授業に付きものの記号や数式はほとんど出てきません。

後期のテーマは「近代科学の誕生と発展」で、ヨーロッパを舞台に近代科学が誕生し、技術を通して社会で大きな役割を果たすようになっていくまでの発展の過程を学びながら、科学技術と社会との関係を考えていく内容になっています。原発事故の例に見られるように、科学技術は私たちの生活や社会に対して利益だけでなくリスクを与えるものでもあることがはっきりしてきました。それに伴って生活や社会の側から科学技術のあり方を考え直すとする動きも出てきました。科学の歴史を学ぶことは科学技術のあり方を考え直すための有効な手段の1つです。

講師の先生方は、科学史研究の重鎮から期待の若手までを揃え、それぞれの持ち味を生かした講義も魅力です。理科系の皆さんはもちろん、文科系の皆さんにも是非学んで欲しい、総合的な人類史を学ぶ講座です。

人間学講座 生涯学習プラザ 月曜日 午前10時30分より

林住期（第二の人生）を生きる－現代日本における「死生学」の展開 東京大学名誉教授 竹内整一ほか

第二の人生では、これからの世界はどうなるのか、誰とどのように絆を結び、どのような生活スタイルを選択するのが等々解決の難しい課題に直面しています。それを受けて第二の人生の生き方を色々な視点から考えていくのがこの講座です。後期のテーマは「死生学」です。「生」と「死」を結びつけながらこれからの生き方を考えていきます。でも真剣ですが、堅苦しくはありません。これはコーディネーターの竹内先生の性格とも関わります。談論風発、斗酒なお辞せずで何でもこだわりなく話せる先生です。

人間学ワークショップ 生涯学習プラザ 月曜日 午後1時より

古典に学ぶ生きる智慧－『歎異抄』を読む お茶の水女子大学教授 高島元洋

生き方を考えさせる「古典」を選んで精読しています。「古典」の中には生きる智慧がぎっしり詰まっていますが、一人では中々読み通せないものです。先生の解説を聴きながら古人の言葉に耳を傾けてゆきましょう。必ず心に浸み込むフレーズがあるものです。いままでに『論語』や『奥の細道』を読了しました。後期のテキストは『歎異抄』です。皆で音読しながら一条一条ていねいに読み込んで考えてゆきます。

新ワークショップの運営ルール

1年かけて2012年度からのワークショップ運営ルールが最終的に決定しました。2012年度以降は新しいルールでワークショップの運営をしてゆきます。

ワークショップ運営の前提

(1) カリキュラムの設定

ワークショップの魅力は内容の充実した新鮮なカリキュラムの提示である。ワークショップのカリキュラムは担当理事および運営世話人がコーディネーターの先生と相談した上でコーディネーターが決め、カリキュラム企画編成委員会の承認を得る。なおワークショップにはすべてコーディネーターをつける。

(2) 謝金と運営費

直接損益（受講料－（謝金＋その他直接運営費））は受講料で賄う運営をする。



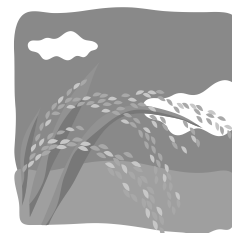
(3) 運営方法

定員までの受講生数の増加努力、自習、開講回数等自主採算のための工夫に努める。

(4) ワークショップの全体的調整

アカデミー講座・ワークショップ検討プロジェクトで総合的・中長期的に対応を検討し、検討結果を企画・運営委員会へ提案する。企画・運営委員会での検討を経て最終決定を行う。その結果は講座・ワークショップ運営世話人代表者会議に報告してゆく。

ワークショップ運営ルール



(1) 受講料

受講料は原則として下記の如くする。

会員：12,000円/12回、10,000円/10回、6,000円/6回

聴講生：13,000円～14,000円/12回、11,000円～12,000円/10回、6,500円～7,000円/6回

(2) 開講回数

1期6回～12回とする。

(3) 講師謝礼金

原則として20,000円/回、25,000円/回、30,000円/回 33,333万円/回のいずれかとする。謝金の額は募集定員を考慮してコーディネーターと担当理事、代表世話人が協議して決定し、学期単位で見直しできるものとする。

(4) 募集定員

内容、実態に即した定員を担当理事、世話人代表が協議の上、コーディネーターの了解を得て決定する（定員下限：25名）。

(5) ワークショップ存続の条件

2期（1年）連続して直接損益が25,000円以上の赤字の場合は、企画・運営委員会が企画の大幅変更や統廃合等を含めた対策を徹底的に講ずるよう、該当ワークショップコーディネーター、担当理事、世話人代表に要請する。

(6) 必要経費について

①資料代等

講座における資料代、入館料などは受講生負担とする。その他資料代、入館料以外のワークショップ運営のための物品及びサービス購入については領収書を添付し、担当理事印を必ず捺印してNPO経理担当へ請求する。

②交通費

下見に要する費用については、一箇所2名に限り1名2,000円を限度として支払う。ワークショップ小委員会、運営世話人代表者会議等への交通費の費用精算は、その会議日におこなう。

『編集後記』 あかあかと日はつれなくも秋の風

2011年度アカデミー後期講座が開始されました。今後も内容のより充実した講座・ワークショップの提供に努めてまいりますので、ご後援をお願いします。

編集責任者：折居 晃一、 田辺 初子、 眞田 強、 笹子 まさえ